



194
お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

写真が伝える、 65年前の「伊佐浜」の姿

この写真は、1953（昭和28）年の「土地収用令」の公布以降激化し、「銃剣とブルドーザー」と称される土地強制接収が行われた場所の一つである、伊佐浜で撮られた写真です。

1955（昭和30）年7月19日未明、伊佐浜では反対する人びとをよそに、「土地の強制接収」が強行されました。その際、米軍は北前の海に浚漑船を用意し、海の砂を恵みの大地に流し込んで田を埋め、ブルドーザーで田畑と宅地を敷きならし、人びとの生活の場、生活の糧を一瞬にして奪い去りました。

この写真の中央に写っている大きなパイプ（管）は、浚漑船からつなげて田畑に海の砂を流し入れるためのもので、重機はそのパイプを設置するためのものかと思われます。この写真に写っている状況などご存知の方がいらつしやいましたら、ぜひ情報をお寄せください。

市立博物館では、このような古い写真を

さらに集めて、整理保存活用を進めていきます。また、最新刊の宜野湾市史『伊佐浜の土地闘争（資料編）』に引き続き、写真などを多く使った『伊佐浜の土地闘争 ビジュアル版（仮題）』の編集作業を進めています。1950年代の伊佐浜土地闘争に関連した写真や情報をお持ちの方、ぜひ連絡をください。（大城博美）

【お問い合わせ】市立博物館 ☎870-09317



▶1955年7月19日頃に伊佐浜で撮影された写真

（名嘉真宣幸氏提供／宜野湾市立博物館所蔵）

―当時、米軍に見つからないように、家の中から壁に穴をあけて撮影するなど工夫し、人びとに状況を伝えるために必死の思いで撮影したという貴重な写真。

新しい遺跡の発見！



令和元年度宜野湾市では、「伊佐上原南遺跡」「佐真下屋取古集落」「伊佐伊利原遺跡」「喜友名・新城の宿道」という四件の遺跡が新規発見されました。今回はその中から「伊佐伊利原遺跡」を紹介します。

遺跡の概要

伊佐伊利原遺跡は標高六メートルの大山区と伊佐区の境界付近に立地し、昭和二〇年頃の航空写真で確認すると周辺は畑などの耕作地として利用がされていたことが分かっています。

伊佐伊利原遺跡が最初に発見されたのは令和元年五月に行われた試掘調査のときです。その際にシャコガイなどの大型の貝や土器の欠片が出てきました。調べてみるとその土器の中に面縄前庭式土器と呼ばれる約四〇〇年前の土器が含まれていることが分かりました。伊佐伊利原遺跡が見つかった場所は共同住宅の建設が予定されていたため、同年七月から遺跡の内容を記録するために緊急発掘調査が行われました。

調査の成果

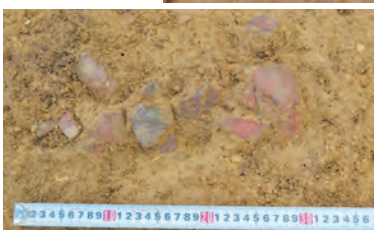
伊佐伊利原遺跡の発掘調査では約三メートル四方の範囲でシャコガイやサラサバテイ（タカセガイ）などの大型の貝が集中して出土する部分が確認されました。その中には貝だけでなく約一五〇〇〜二〇〇〇年前の土器や石器の欠片も多く出土しています。また、貝集中部以外の場所からはさらに古い土器が見つかっています。この遺跡で一番古い土器は、室川下層式土器と呼ばれる約四五〇〇年前の土器になります。また、試掘調査で見つかった面縄前庭式土器も緊急発掘調査ではまとまった状態で出土しており、遺跡の周辺では古い時代から人々が生活していた様子がかがえました。

現在、伊佐伊利原遺跡で出土した資料を調査・整理中ですが、また新たな発見が分かれば、次第、報告します。

【お問い合わせ】文化課 ☎893-4430



発掘調査の様子▶



◀面縄前庭式土器出土状況